

授業科目名	<p style="text-align: center;">在宅看護学特論Ⅳ <i>Advanced Studies in Home Care Nursing Ⅳ</i></p>		担当教員	小林 裕美、乗越 千枝	
開講年次	1年後期	セメスター	2	時間数(単位数)	30 (2)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	講義	使用教室	
授業の目的	医療処置の必要な対象に対して医療機関の包括的支援を基盤として、検査、処置、対症療法、薬物調整などについて、アセスメントを実施し、看護を実践できる。				
到達目標	<p>1. 在宅における主要な疾患の診断と治療を理解できる。</p> <p>2. 医療処置の必要な対象には医療機関の包括的支援を基盤として、検査、処置、対症療法、薬物調整などについて、アセスメントを実施し、看護を実践できる。</p> <p>3. 在宅の主な医療処置について、医療機器や器具の取り扱い方法を学ぶとともに療養者及び家族への指導方法について修得することができる。</p>				
	<p><本科目の授業の進め方></p> <p>本科目は、在宅医療に関してケアとキュアの統合を学ぶ科目であり、1～12回においては、この視点を踏まえて学習し、13～15回は、ケアとキュアの統合の総合的な学びをまとめる。</p> <p>1～2回 循環器系疾患の診断と治療 (1) (2) 在宅医療 (外来を含む) における循環器疾患の診断と治療 (検査方法、処置、対症療法、薬物治療を含む)。疾病管理および、症状マネジメント (ゲストスピーカー 宗像水光会総合病院 循環器科部長 吉武 清伸)</p> <p>3～4回 呼吸器系疾患の診断と治療 (1) (2) 在宅医療 (外来を含む) における呼吸器系疾患の診断と治療 (検査方法、処置、対症療法、薬物治療を含む)・在宅酸素療法を含む疾病管理と症状マネジメント (ゲストスピーカー 機能強化型在宅療養支援診療所 コールメディカルクリニック福岡 院長 岩野 歩)</p> <p>5～6回 脳血管疾患の診断と治療 (1) (2) 在宅医療 (外来を含む) における脳血管疾患の診断と治療 (検査方法、処置、対症療法、薬物治療を含む)。疾患から生じる機能障害への対応とリハビリテーション (ゲストスピーカー 宗像医師会病院内科医師 吉永まゆみ)</p> <p>7～8回 内分泌・代謝系疾患の診断と治療 (1) (2) 在宅医療 (外来を含む) における内分泌・代謝系疾患の診断と治療 (検査方法、処置、対症療法、薬物治療を含む)・糖尿病、腎疾患を中心とした疾病管理 (ゲストスピーカー 赤坂おけだ糖尿病内科 院長 内分泌専門医 桶田俊光)</p> <p>9～10回 消化器系疾患の診断と治療 (1) (2) 在宅医療 (外来を含む) における消化器系疾患の診断と治療 (検査方法、処置、対症療法、薬物治療を含む)。排便コントロール、栄養状態のアセスメントとその対策 (ゲストスピーカー 赤坂おけだ糖尿病内科 院長 内分泌専門医 桶田俊光)</p> <p>11回 在宅医療における感染症とその対策について 在宅における発熱時や感染徴候についてのアセスメントを実施し方法および薬物調整を含めた治療法、予防的ケアについて学ぶ。(小林)</p> <p>12回 在宅における褥瘡ケア 褥瘡治療における壊死組織の除去、不良肉芽の切除、褥瘡に対する陰圧閉鎖療法等の医療的処置について学び、訪問看護における褥瘡ケアに結びつける。 (ゲストスピーカー 総合せき損センター WOC 認定看護師 中村美保子)</p> <p>13～15回 在宅医療におけるケアとキュアの統合 1～12回までの学修を踏まえ、ケアとキュアの統合による高度な知識技術を駆使した看護実践について討議する。さらに、在宅人工呼吸療法など高度な医療処置を必要とする療養者に対する症状、検査、処置、対症療法、薬物調整等についてアセスメントを実施し、実践する。 (ゲストスピーカー 訪問看護ステーションレスピケアナース管理者 呼吸療法認定士 山田真理子、小林、乗越)</p>				

学習方法	主体的に学習に取り組めるようテーマに関する学生のプレゼンテーションと討議を基本とする。
オフィス アワー	水・木の昼休みもしくはメールでアポイントを取ってください h-kobayashi@jrckicn.ac.jp (小林) c-norikoshi@jrckicn.ac.jp(乗越)
テキスト	特に指定はしない
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・川人 明：在宅医療の完全解説 2014・15年版—在宅診療・指導管理・適応疾患・使用材料の全ディテール。東京，医学通信社，2014. ・NPO 法人 日本医療ソーシャルワーク研究会、村上須賀子：医療福祉総合ガイドブック 2015年度版。東京，医学書院，2015. ・大谷 玲子、輪湖 史子：在宅療養指導とナーシングケア 退院から在宅まで〈4〉在宅人工呼吸(気管切開開口/鼻マスク)/在宅持続陽圧呼吸療法。東京，医歯薬出版，2004. ・合田 文則：胃ろう PEG 管理のすべて。東京，医歯薬出版，2010. ・岡田 晋吾，三鬼 達人：半固形化栄養法ガイドブック PEG から NG チューブまでできる，吹田，メディカ出版，2012. ・田中 マキ子、下元佳子：在宅ケアに活かせる褥瘡予防のためのポジショニング—やさしい動きと姿勢のつくり方，東京，中山書店，2009. ・訪問看護業務の手引 平成 27 年 4 月版—介護保険・医療保険，2015. ・大浦 武彦：新しい体位変換：不適切なケアが褥瘡を悪くする!，東京，中山書店，2013. ・WOC Nursing Vol.2 No.10—WOC(創傷・オストミー・失禁)予防・治療・ケア 特集:在宅で考える 2014. ・一般社団法人 日本褥瘡学会 (著)：在宅褥瘡予防・治療ガイドブック 第 3 版 褥瘡予防・管理ガイドライン(第 4 版)，東京，昭林社，2015. ・美濃良夫：褥瘡の予防と治療・ケア用品ガイド—褥瘡の予防・治療の基礎知識と、用具・薬剤の選び方のポイント&カタログ，東京，医学芸術社，2002. ・押川 眞喜子，坂本 史衣：これだけは知っておきたい!在宅での感染対策—訪問看護のための基本と実践，東京，日本看護協会出版会，2008. ・日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン委員会：がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014 年版，東京，金原出版，2014. ・国立がん研究センター中央病院薬剤部：オピオイドによるがん疼痛緩和 改訂版，東京，エルゼピアジャパン，2012. ・角田直枝，瀧本千春：がん疼痛ケアガイド，東京，中山書店，2012. ・角田 直枝 (編集)：実践できる在宅看護技術ガイド 大型本，東京，学研，2013. ・日本呼吸器学会 (著)：NPPV(非侵襲的陽圧換気療法)ガイドライン，東京，南江堂，2015. ・角田 直枝：スキルアップのための在宅看護マニュアル，東京，学研，2005.
評価方法	授業・討議への参加度 (50%)、学習への取り組み・プレゼンテーション (50%)